

## アジアダイナミズム研修視察（済州平和フォーラム2014）学生報告（要約・抜粋）

### 経営情報学部 4年 澁谷 元樹

英語で行うセッションに参加し、自分の英語能力を試す機会を多く得たことがよかった。専門的な英語の内容を長時間聞ける集中力を今後はより増すようにしたい。自分の進路に影響を与えた哲学者の行徳哲男先生と対話できたのがよかった。今回の研修に参加したことによって、私はよりいっそう「強い人間」になれそうな予感がした。

### 経営情報学部 3年 米倉 聡之介

日本、韓国、中国、米国の大学生交流の場において「アジア時代における日本の役割」という内容をスピーチしました。ゼミでのスピーチの内容の準備作成から実際にスピーチするまでの全てが私にとって勉強でした。緊張して自分の番を待っている中で、各国のスピーカーは非常に流暢な英語で堂々とスピーチをしていて驚かされました。無事にスピーチを行いました。自分にはグローバル社会を生きていく上で課題が山積だと認識しました。社会に出て行く前に、こういった場面をもっと経験するべきであり、英語能力は必須だと再認識しました。

フォーラム参加によって多くの人に出会うことができました。日本訪問団の中の複数の方にも名刺をいただき「連絡してくれ」と言ってもらえました。また、ジョージワシントン大学の学生達とも連絡先を交換し、今でも連絡をとっています。私は8月から、アメリカの州立大学に留学しますが、その最中にも今回知り合ったアメリカの学生と交流し、何かできないかと考えています。今後、様々な国籍を持った人と交流・討論をしていくことで、様々な視点、様々な立場から1つの問題を見ることのできる人間になりたいと感じました。

### 経営情報学部 3年 奥村 勇太

下村文部科学大臣の講演の中で、中国の台頭におけるアジアのパワーバランスの変化に対し日韓がどうリーダーシップを發揮していけばよいかの話や、日韓国交正常化50周年という記念の年に日本は韓国とどう上手く向き合うのか等、自分にとって教養となる話をたくさん聞くことができました。また、多くの日本の経営者と地方議員との交流は、最も有意義であった。私の拙い英語でも、様々な国の外国人と会話することができた。反日感情の強いと思っていた韓国と中国の方も、その認識を忘れてしまうぐらいにフレンドリーでとても楽しい時間を過ごすことができ、私が理想とする東アジア共同体の実現も全く不可能な問題ではないと思った。

### 経営情報学部 3年 北川 桃太郎

ヒューレッドパッカートの女性実業家のカーリー・フィオリーナさん、下村博文部科学大臣等の著名人の講演や討議は、とても内容が濃く、今まで表面的な視点でしか物事の問題点を観ることができなかった自分にとって、本質を観る力と分析する力を身につけるきっかけになればと思っている。異文化に触れたことで、日本の良いところ悪いところに改めて気づいたし、皆同じ人間であるという当たり前のことも実感できた。商店街での現地の人との対話も思い出になった。

### 経営情報学部 3年 藤武 翔

セッションで得られた知見としては、グローバル化に伴う貧困問題と日本の農業の可能性についてである。特に、最近の農業はモノを売るだけでなく、バイオ科学や食品産業との融合と連携が重要ということがわかった。絶えず、世界の情勢について勉強したい。

### 経営情報学部 3年 森岡 賢司

世界平和とアジアの発展を真剣に思う58カ国3800人という多様な人々が互いを尊重し、認め合う素晴らしい空間を体験することができ、私の価値観、物事

の捉え方を大きく変えてしまうような有意義な時間であった。日本の常識が世界の常識ではないことがわかった。

### 経営情報学部 3年 矢澤 捷之

済州フォーラムでの様々な議論を聞き、今後はアジア視点での、政治、国際問題、歴史について積極的に学んでいこうと思った。外国語でのコミュニケーションがさらにできるよう勉強する意欲が生まれた。

### 経営情報学部 2年 岡部 昌

セッションでの各国代表者の発言内容は難しかったが、大学で勉強した内容と関係していたので理解が可能であった。グローバル化とアジアについての見識はしっかり身につけていることを確認できた。ホテルの部屋や食事は贅沢で満足した。韓国の人は面白い方が多く、また行きたいと感じた。多摩大の先輩から後輩、社会人の方との輪が広がり非常に良い経験となった。

### 経営情報学部 2年 金井 沙樹

フォーラムに参加する前までは、中国・韓国の国民は日本と関係を良くしようとする気はないと思い込んでいたが、セッションを聞いていくうちに3カ国の政府の意図とは関係なく民間は互いが協力して良い関係を築いていこうとしていることがわかった。残りの大学生活の日々、より勉強して、本格的に海外留学も考えていこうと思うようになった。

### 経営情報学部 2年 徐 亜茹

多摩大の教員と学生同士が楽しく一緒に過ごせてよかった。先生から人生経験を含め様々なことを対話できた。もっと英語と日本語能力、経済的知識を高めたいと思った。

### 経営情報学部 2年 宮崎 遥子

各セッションでは色々な国の学者が話しており、各国の問題の捉え方の違いが存在することがわかった（例えば、歴史や領土問題）。どのセッションでも各国の協力関係や若者のパワーの必要性が強調されていた。グローバル化した今、どの分野においても日韓は互いの協力を必要としており、例えば、企業間協力において互いを補っていき必要性を感じた。アジア時代は日韓が共に切り開くことができるよう願う。済州島の現地学生と交流があり、言葉の壁が存在しないのではないと思うくらい楽しく話した。より英語力を高めたい。

### 経営情報学部 1年 青木 耀樹

下村大臣がとても明るく一緒に写真も撮ることができて嬉しかった。まず日韓がアジアの発展のために協力し、互いを知るべきだと思った。中国の人や韓国の大学院に在籍している日本人学生とも留学に関する話ができてよかった。最終日の済州島観光も気持ちよく、また韓国に旅行に行きたいと思った。

### 大学院経営情報学研究科 2年 和泉 昌宏

各国要人によるハイレベルな議論とその内容の幅の広さが印象深かった。北東アジアのグローバルな視点での重要性、政治外交課題、歴史認識、TPP等の貿易問題、さらには気候変動等の問題について見識を深める絶好の機会であった。領土を巡る対立に関しては、明確な答えは短時間で得られないものの、パネリストからは大変建設的な意見が多く出されていたことは大きな成果である。



下村博文部科学大臣と多摩大生との懇談会



済州島研修晩餐会会場にて



済州島研修晩餐会会場にて

## 〈木村知義プロジェクトゼミ〉

# メディア実践論の制作現場から

多摩織、美と伝統の世界へ！  
～ゼミの“熱き魂”を胸に、美しいものを探しに～

経営情報学部 2年 井上 路華

「このプロジェクトゼミは何をするんだろう・・・」

これは科目一覧を目にした時、私がまず抱いた思いだった。事情があって2回目までは授業に出られず、Webの画面上で履修を決めたのだった。他の先生にも勧められ、いってみれば興味本位で受けてみようかと思っただけで、授業内容もシラバスを一瞥しただけ。「番組制作をするらしい？」という友達からの情報だけで決めた。知った顔の人もいるし、まあなんとかなるだろうと、正直軽い気持ちで教室に行ってみたのだった。

しかし、先生が熱い！

この印象は凄まじかった。最初は様子をうかがうように授業に参加していたが、そこで渡された資料、なんとも分厚い。なんだこれは…と本当に戸惑ったことを覚えている。木村先生の授業への力の入れ方が半端じゃないことが分かった。また先生は授業90分間ほとんどの時間、学生に何かを話される。取っ掛かりは学生それぞれの取り組みや作業の進捗報告なのだが、先生はどんな小さな話も拾っていくといった感じだ。「何もしていません」じゃ済まされないような勢いにつられ、ちょっとしたことでも話そうようになっていった。毎回この調子なので、先生に答えなくてはいと意識が変わるのは、もはや自然なことだった気がする。この流れに乗れないのなら、このゼミでやっていくことはできないだろうと思った。

そんな覚悟を胸に今、私が取り組んでいるテーマは「多摩織」だ。

大好きな「ものづくり」の世界で、多摩に根差すものを探したいと思いついた。何か面白いネタはないだろうかと思いつくこと数週間。この間、いくつか良さそうなものが見つかったが、これだ！とツボに入るものは最後の最後にやってきた。リサーチに苦労してこそ企画への道はひらけるといふ、まさにこのゼミのセオリーその一だ。

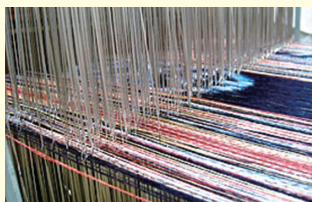
多摩織とは、その名の通り多摩でつくられている織物である。この地の伝統工芸品として、蚕によって生み出される絹の糸を宝石のように大事にして、ひとつひとつ丁寧に織られてきた。絹独特の光沢を出す「練り」（精練）といわれる工程や染色、織の技法などの違いで5種の織物が登録されている。また、意匠紋紙、糸染め、糊付、整経、拵、捺染、撚糸、機拵、整理加工など細かい工程に分かれていて、それぞれに職人の技が重ねられ一枚の多摩織ができていく。まさに伝統の手仕事の世界なのだ。こうした美しいものを生み出す技を極めた人たちがいることも私が多摩織に魅かれた大きな理由だった。

遡れば、多摩織は、多摩という地名が生まれるよりずっと前からこの地域にあった伝統の織りだという。その歴史だけで一本の番組を組めそうなのだが、今私が着目しているのは、なぜ多摩の地でこの織りが連綿と続いてきたのかということだ。生糸で知られる八王子など、昔は糸からこの地で作っていたそうだが、最近では安い輸入糸を使うことがほとんどになったという。現在ではマルベリーシティーというブランドも生まれ、ネクタイやストールなども造られている。このような時代の変化の中で、多摩織を守るとはどういうことなのか、伝統の技を守る人たちは何を思いつめ、どんなことを考えているのか。私はそれを知りたい！そしてそれを作品化して多摩に住む人々に伝えたい。

「こんな美しいものを生み出す歴史と風土が、そして人びとが多摩には息づいているのだ」と。

さらに、この企画は、多摩で学ぶ私が、多摩という地にどんな思いを抱いて生きているのか、多摩という土地へのこだわりはどんなものなのかを、あらためて問いかけてくるものとなっている。

これから秋に向けて、いよいよロケ本番を迎えることになる。



経糸と緯糸が美を紡ぐ



多様な魅力を見せる多摩織

発見！多摩の山には“橋”がある  
～人と暮しを繋ぐ「橋」を訪ねて～

経営情報学部 3年 鈴木 舜

多摩市には数多くの“橋”がある。

“橋”というと、川をイメージするかもしれないが、ここでいう“橋”は川に架かる橋ではない。山に架かる橋である。

今年の「メディア実践論」では、多摩をテーマとした企画を立てることになった。そこで、私は以前から興味を持っていた多摩市の不思議な「風景」を企画として取り上げることにした。私は趣味でいくつかの多摩市の公園を散歩したことがあったが、その時によく見掛けるのが“橋”である。ただし、これは私の歩いた公園が川に面していたということではない。つまり、この“橋”は川に架かっているのではないのだ。この“橋”は公園や団地の敷地を相互に繋いでいる。これが山に架かる橋である。

この“橋”が実に面白い。公園を散歩しているうちに“橋”に出会い、そこを渡り次の場所をしばらく歩くとまた新たな“橋”に出会う。これを繰り返してどこまでも歩いていけるのではないかと思えてくる。まるでまだ見たことのない「謎の世界」に繋がる“橋”のようでもある。しかし、車に遮られることなくまるで探検気分、気持ちよく公園を散歩しながら私は疑問に思った。

なぜ多摩にはこんなにも“橋”が多いのか、と。

この“橋”の建設は多摩ニュータウン開発の一環である。多摩丘陵の高低差を活用して“橋”と車道を立体交差させることで、歩行者が車道の上に架かる橋を利用して安全かつ自由な移動を実現することが“橋”の目的だったのだろう。私は、特に、自由に移動できるということにこの“橋”の魅力を感じる。歩いている際に車が来ないことが保障されることで、その場所において歩行者の自由度が大きく広がる。また、見方によっては“橋”で繋がり自由に移動できるのであれば、その“橋”の両側には境界が無いとも言え、橋で繋がった場所の一つの土地と見なすこともできる。これは、大きな「価値」に繋がる可能性を秘めているのではないかと思う。

ここで、この“橋”の意義について考えてみる。すでに述べたように、この“橋”は安全かつ自由な移動を実現しており、利便性が高い。しかし、“橋”は人に使われることこそ最も意義がある。現在、多摩ニュータウンでは団地など建造物の老朽化、住人の高齢化、空き店舗の増加といったいくつもの問題を抱えている。このままでは活気が衰え“橋”の利用が減る。つまり、“橋”の価値が下がってしまうということである。これはこの“橋”に魅力を感じる私にとって見過ごせることではない。そのため、“橋”の魅力を主張するために、“橋”の価値を高める有効な利用方法を模索してみたいと思うようになった。

多摩市と“橋”がテーマである私の企画は、まだ私のイメージのなかにある“橋”の魅力にとどまっているというべきだろう。先生からは「鈴木君は詩人だね、この感性は面白いよ」といわれることもある。しかし、これではまだ人に何かのメッセージを伝えるには不十分かもしれない。ゆえに、今後は、自分の感じる“橋”の魅力についてもっともっと考え、人と暮しにとって“橋”とは一体どんな意味を持っているのかを掘り下げてみなければと思う。そして、多摩の、山に架かる“橋”についての考察をさらに深め、多摩市における“橋”の存在価値やその可能性を発掘していきたいと考えている。

う～ん、「詩人・鈴木」の想像力と創造性が試される秋だ・・・。



山に架かる不思議な橋



土地と暮しを繋ぐ橋

## 目標と学生生活

私は、英語に触れられる、外国の人と関われるということで、多摩大学グローバルスタディーズ学部に入学することに決めました。「英語が得意だからこの学部に入学した」という訳ではなく、逆に英語に対しては苦手意識の方が強くありました。ということもあり、入学後のクラス分けを決める TOEIC の点数も悲惨な点数であり、一番下のクラスから私の大学生活はスタートしました。一番下のクラスに割り振られながら私は交換留学でドイツのブレーメンに行きたいという野望を秘めておりました。この野望は見事3年生時に果たすことができ、一番下のクラスから始めた英語のクラスも2年生時には一番上のクラスへとジャンプアップすることができました。このことから私は目標を持つことの大切さを学び、そして一つの学生生活の中での成功を勝ち取ることができました。今回は一番下のクラスからスタートし一番上のクラスへと上がり、そして交換留学生としてドイツへ行くまでの私のがぎと留学生活を通して感じた危機感等を伝えられればと思っております。

初めての授業の日、というよりかは TOEIC の結果が返却されたときに私は、「こんな点数で、英語で授業なんてどうやってやるんやろう。授業になるのかな。」というのが最初に感じた事であったと思います。案の定その感じたことというのはほぼほぼ実際に起こったことでありました。喋っていることが聞き取れず、何か答えなければならぬんだらうなということとは分かりますが、なんと答えればいいのか分からない、なにを質問されているのかわからない、こんな状態から授業がスタートしました。もちろんこのようなままでは授業は進まないの、先生が喋った内容をホワイトボードへ書き出してくれて、「そんな簡単なことを聞いていたのか、そんな単語しか使ってなかったんだ」と先生が質問していることが理解できなかった自分に失望したのを覚えています。ですが、この聞き取りに関しては、さすがに毎日3時間授業があれば一ヶ月もすれば分かるようになりました。それに加え私は某聞き流し英語教材を毎日往復2時間、通学時に聞き続けたこともあってか、他のクラスの学生よりも理解度が上がりました。ここでポイントとなり、よく TOEIC のテスト前にもやることなのですが、倍速で聞くことで普通の速さで英語を聞いたときより明確に英語を聞き取ることもできました。なので授業の前に聞いてやってみることも良いのかも知れません。聞き取りに関しては授業と倍速の聞き流し、それに加え私は洋画を見るようにすることで改善に努めました。器用ではないので、とにかく量を増やすことで聞けるようになっていきました。読み書きと話すことに関してはなかなか一人で改善することは難しく、私も自習ではなく学習支援室で先生や、同級生、先輩方と一緒に TOEIC



ドイツから帰国前に自分で開いたお別れパーティーの集合写真です。  
ドイツでは誕生日等も自ら開くそうです。

## グローバルスタディーズ学部 4年 田上 勝也

の勉強をすることで、私はさらに英語に触れる機会を増やすことを心がけました。それが私の英語力が伸びたきっかけかなと思います。学習支援室でやったことを復習することと色々な参考書にも手を出してやってみたことも力になっていると思いますが、学習支援室に行くことできっかけを作ることができたことが私の中では大きなことでありました。器用な方は一つの参考書をやり通すのも良いかもしれませんが、私は色々な参考書に手を出しそれぞれから違うことを学んでいくことも一つではないかなと思います。一つの参考書に固執して続けられないよりは、色々なやり方で常に勉強を続けるほうが良いと私は感じました。この勉強を一年間続けることで気がつく、2年生時には一番上のクラスにまで上がっていました。正直なところ、この勉強の続け方は辛くありませんでした。通学の時間を利用すること、映画を見ること、友達や先輩方と一緒に勉強すること。一人で抱えて一人で苦しんで勉強できないのであれば、みんなでやれば良いのではないかと、やらないよりはやることで、続けることで結果が変わってくると思います。

続いては、ドイツでの留学経験を通して感じたことですが、「みんな大学に勉強しに来ているんだな。」「自分ももっと勉強して知識を付けていかないと。」ということでした。留学先の学校では学校全体が学習支援室のような空間でした。多くの学生がいた所で、グループで勉強していたのです。学校から出される課題と一緒にやっている人たちも居ましたし、それぞれが自分の勉強をしていて分からない事があれば、お互いに質問し合っている集団もありました。なので、私もみんなと一緒に勉強できる時間が多くとても有意義に、楽しく勉強できました。ですが、ここで問題となってきたのが知識量の差でした。私が質問したことに対してはみんながしっかり答えてくれたのですが、みんなが質問してきたことに対して私が答えられることは限られていました。なので、色々な知識を付けること、それに加えてそれを英語で意見交換できるための英語力が必要だなと感じました。留学を通して、勉強することに対する意欲の高さ、知識量の多さから刺激を受けることが多々ありました。

私は大学生活を留学とはかけ離れた存在からスタートし、英語力を付けることで交換留学に行くという目標を達成するに至りました。ですが、その先にまだ、力不足を感じることもあり、さらにこれからも努力していかなければならないと感じるきっかけも与えて貰いました。何かに目標を持ち、行動すること、とにかく何か行動することで成長していくきっかけ、楽しさを学ぶことができこれからも色々なことに興味関心を持ち行動していきたいなと思っています。



フットサルの大会に出て、優勝したときの写真です。  
毎回身体が痛くなりました。

## Public viewing

経営情報学部 学生会 企画部

去る6月20日、001教室。早朝にも関わらず、多くの人が集まり、教室のスクリーンに釘付けになった。代表選手たちの、フィールドでの活躍に一喜一憂し、ときには大きな歓声があがることもあった。ワールドカップ。多摩大学でのパブリックビューイング。001教室にある巨大なスクリーンと、卓越した音響設備を用いて、いつもとは違った感覚で、違う環境下で、そしていつもの仲間たちと一体になって応援したい。実際に東京ドームへパブリックビューイングを観に行ったことのある学生会役員から発せられた緊急企画であった。企画発案から開催までは1週間もなかった。しかし、開催にまでこぎつけられた理由は、事務局の多大な協力ということもあるが、前日夜遅くまで大学に残り、設置準備に取り組んだ学生会役員の働きがあったからこそである。広報での反響の中には、「自分たちの時にもこんな企画があれば」という先輩方からの声も頂いた。これからも学生会は、先輩方も羨むような、時には先輩も巻き込んだ多摩大学一体で盛り上げられる企画を立案実行していきたい。



## BEER GARDEN

経営情報学部学生会 執行部部長 伊藤 公亮

7月31日に、多摩キャンパス芝生にて、学生会執行部主催 BEERGARDEN イベントを開催致しました。このイベントは、学生委員会（教員・事務局で構成される大学の委員会）とのランチミーティングの際に、「キャンパス内でお酒が飲めたらいいな」という、学生会執行部役員の声から立案されました。

学生会執行部主催による飲食イベントは、昨年冬に行われたKTC大掃除以来2度目と運営経験も浅く、夜開催による照明や近隣への対応の問題、アルコール提供時の管理体制等、開催に際し、至るまでの課題も山積みであり、マニュアルもない中で、手探りでのイベント準備となりました。また、学生会執行部創部後初の有料イベントであるため、本当に人が集まるのか懸念もあり、お金をいただく以上、今までのイベントよりも満足をしていただかなければならないプレッシャーなど、様々な重圧がのしかかりました。

そんな中で迎えたイベント当日。当日にも様々なトラブルに見舞われ、課題の多く残るイベントとなりましたが、50名近い方にご予約をいただき、当日参加をしてくださった学生もおり、学生、教職員、学生会執行部役員総勢で70名程度と、沢山の方にご来場いただき、盛況のうちにイベントを終えることができました。ありがとうございました。



## 学生会執行部 後期の活動に向けた抱負

ここからは、後期の活動に向けた、学生会執行部の抱負を綴りたいと思います。BEERGARDEN イベントにおける設営を含め、日々の学生会活動の中で、部内の食い違いやすれ違いも多くありながらも、学生会執行部メンバーの結束力は、イベントを重ねることに固く結ばれつつあり、私自身も学生会メンバーのおかげで、日々成長が出来ていると実感できます。第二代学生会執行部の任期も残り5ヶ月と節目も差し迫り、今年度の学生会活動は後半戦に突入しました。昨年度3月発行、学生ジャーナル掲載の就任挨拶にて、この組織を軌道に乗せるべく、内側からインフラを整えたいと抱負で述べましたが、まだまだ私の務めを果たしきれていない部分が多々あります。この半年間で、組織運営の難しさを痛感し、僕に付いてきてくれる学生会執行部メンバーの受け止めきれないほどの温かさや、それぞれの想いもいただきました。来年度以降に向けて、僕らがやらなければならないことは山ほどあります。このメンバーで楽しく活動ができ、最後には執行部メンバー一人ひとりが自己の成長を感じることが出来るよう、努めてまいります。どうか最後まで私に付いてきてくれれば嬉しいです。話が変わってしまい申し訳ありませんが、このジャーナルをお読みになった皆様も、これからの学生会の活動への御支援をくださいますと幸いです。これからも、学生会執行部をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 学園祭実行委員会からのお知らせ

学園祭実行委員会 委員長 並木 望

今年の多摩大学の学園祭（多摩祭）は11月15日（土）、16日（日）に開催致します。そして、今年の多摩祭は見所がいっぱい！毎年恒例であるヒーローショーはもちろん、有名人によるトークショーなども予定しています。多摩祭は小さなお子様から大人まで幅広く楽しめるように多数企画していますので、是非11月の15日、16日は多摩大学へ遊びに来てください！絶対に後悔させません！

## 学生会執行部 新入部員募集

多摩大学経営情報学部学生会執行部では、共に多摩大学での生活をより良くしたいと考えている仲間を随時募集しております。ご興味のある方は [tamagakuseikai@gmail.com](mailto:tamagakuseikai@gmail.com) までご連絡いただくか、学生会室（テニスコート向かい）までお越し下さい。